

科目名・単位数	財務会計演習 I A 2単位	科目分類	財務会計系	応用・実践科目
配当年次	2年次・春学期・昼・夜	担当教員	ふるいち ゆういちろう	
履修形態	選択必修		古市 雄一郎	
授業概要	<p>本演習は、財務会計 I・財務会計 II の講義を履修した学生を対象に、基本書の輪読を行うものである。輪読とは、毎回の授業ごとに基本書の各章の担当者を決めて、要約レジュメを作成してもらい、その内容のプレゼンテーションを行ってもらい、そのうち、講座担当者や受講生からその内容について、質問等を投げかけながら、ディスカッションを行っていく講義方法である。基本書の熟読を通じて、財務会計論の本質を理解する。</p>			
到達目標	<p>①財務会計論の基本書の熟読を行う。 ②財務会計論の本質を理解する。</p>			
授業方法	<p>輪読並びにディスカッションを中心とする。コロナウイルス感染対策期間中は映像講義および課題により講義を行う。</p>			
事前・事後学習	<p>テキストの指定箇所の予習 (120 分) 必要な補足資料の収集 (120 分) 計算演習 (120 分)</p>			
成績評価の方法	<p>提出された課題及びレポートにより評価を行う。</p>			
フィードバックの方法	<p>講義内における質疑応答、ディスカッションを通して行う。</p>			
履修上の注意	<p>簿記・会計の基礎的な知識があることが望ましい</p>			
授 業 計 画				
第 1 回	<p>前半はオリエンテーションに充てる 後半は、輪読用のレジュメの作成の見本として、演習担当者がレジュメを作成したものを使って、プレゼンテーションを行う。内容は、序章「現代の企業会計」についてである。 (復習：講義内での議論の論点整理 90 分)</p>			
第 2 回	<p>内容は、第 2 章「企業会計の本質とフレームワーク」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各 90 分)</p>			
第 3 回	<p>内容は、第 3 章「会計制度の論理と体系」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各 90 分)</p>			

第4回	内容は、第4章「企業のディスクロージャー」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)
第5回	内容は、第5章「損益計算書のパラダイム」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)
第6回	内容は、第6章「経営パフォーマンスの表示と測定」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)
第7回	内容は、第7章「貸借対照表のパラダイム」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)
第8回	内容は、第8章「資産の会計」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)
第9回	内容は、第9章「持分の会計」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)
第10回	内容は、第10章「金融商品の会計」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)
第11回	内容は、第11章「従業員給付の会計」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)
第12回	内容は、第12章「連結グループの会計」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)
第13回	内容は、第13章「企業結合・事業分離等の会計」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)
第14回	内容は、第14章「グローバル化の会計」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (予習：前回講義で指定した資料の下調べ、復習：講義内での議論の論点整理 各90分)
第15回	内容は、第15章「戦略的企業評価に向けて」である。 上記の内容について参加者全員でのディスカッションを行い、その理論的意義を考察する。 (復習：レポート作成)
テキスト	齋藤静樹『会計基準の研究<新訂版>』中央経済社 ※必ず最新版を用意すること。
参考図書	必要に応じて講義内で指示する。